

日時：平成20年8月21日（木）13時から22日（金）11時30分まで

場所：鳥根県民会館

特別講演

「抱きしめておくる 死の文化」

NPO 法人なごみの里 代表 柴田 久美子先生

演者は、日本マクドナルド(株)勤務を経て洋食レストランを経営。特別養護老人ホーム（福岡県）の寮母を振り出しに、隠岐郡知夫村へ移住し、高齢者社会福祉センターのヘルパーとして勤務し、看取りのNPO法人「なごみの里」を設立した。

お年寄りたちは「終（つい）の棲家（すみか）」を求めながら、容体が悪化すれば病院に送られる。また、財産を投入して有料老人ホームで老後を向かえるお年寄りに於いても同様だ。「帰りたいよー」。病院に転送されたあるお年寄りの訴えが耳に残った。医療や福祉の独善ではなく、住み慣れた場所で、お年寄りが望む自然な死を支えたかった。そのような、話が印象的でした。

職域部会 学校薬剤師部会

各県のダニ及びダニアレルゲンの検査測定の実施状況について協議された。

岡山県：県下全校において、検査センターを利用し酵素免疫測定法で実施した。

鳥根県：県下の実施結果を発表。測定に使用した掃除機は、350～1000wと幅があったが、陽性率に差はなかった。

広島県：マイティチェッカー法で実施した結果を発表。湿度と陽性率の関係が興味深かった。当県の検査報告に温度・湿度を記入するよう改善する必要がある。

鳥取県：県教委から、アカレックステスト法ですよう通知があり、測定法の研修を行った。

山口県：県下の実施状況を紹介。予算の関係で実施していない支部もある。

実施している支部はマイティチェッカー法が多い。

班別研究協議会第4班「快適な学習環境づくりをめざす学校環境衛生活動」

中島っ子の環境づくり ～心が育つ・実践力が育つみ～

鳥根県松江市立中島小学校 養護教諭 伊達恵美子先生

児童の意見や要望を大切に取り上げながら環境づくりに取り組んでいた。学校薬剤師と連携もうまくいっている。中島小学校の学校薬剤師の細田修二先生が指導助言者であったので、どのようにしたら学校薬剤師とうまく連携がとれるか質疑があった。養護教諭の先生にうまくおだてられたからと返答されていた。

電磁波測定結果の報告 ～学校内における電磁波の暴露量～

山口県立豊北高等学校 実習助手 松田優子先生

電子レンジ・パソコンの測定で、製造年が古い物ほど磁束密度が高い傾向にあった。携帯電話から発生する電磁波は予想外に低かったが新しい機種に買い換えた方が安全ではないかと思った。どのようにして、このような高度な研究ができるのか質問があった。日本学校薬剤師会・山口県学校保健連合会・山口県学校薬剤師会からの協力があったと返答された。

発表後のディスカッションで、活発な意見が出されました。山口県学校薬剤師会ホームページが参考になると広島県の先生に紹介され、たまたま、USBフラッシュメモリーにデータを入れていたので、紹介をする時間を作っていただきました。

指導助言者の山口県教育庁学校安全・体育課 小田美恵子先生が、ヘッドワーク（頭を使う）、フットワーク（足を運ぶ）、ネットワーク（人脈を築き活用する）が大切と締めくくられました。来年は、広島県で全国学校保健研究大会が開催されますので、中止です。55回は平成22年に山口県で開催されます。